

02 東本町小学校

地域とともにある学校づくり

小中一貫教育の実践（教育活動の方向性）

中学校区の目指す子ども像	差別を自分の問題として捉え、ともに尊重し合う関係をつくる子ども
我が校の目指す子ども像	豊かな知恵とやさしさをもち たくましく生きる子ども 幸せをつなぐ、ひろげる～あなたがいて わたしがいる～



実現に向けた重点的な取組内容	小中一貫教育の具体的な取組	
	我が校の取組	中学校区の取組
	・学びの連続性を意識した「3期3類ひがし同和学习プラン」に基づく授業実践 ・各教科、外国語活動、特別の教科道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の授業における子どもの表現する力の育成と同和学习との関連性 ・自他の人権を尊重しながら互いのよさを認め合う授業づくり	・中学1年生の運営による小学校6年生との交流会を実施。 ・見学、体験を目的とした、城北祭への学区小学生の招待。 ・中学校区同和教育研究会指定地区制度事業（1年目）として、大湾昇さん講演会、授業参観、合同研修会の実施
	成果○と課題■	成果○と課題■
	○夢・志チャレンジスクール事業を活用し、夢・志をもって活動する地域の「人」との出会い、体験活動を意図的、継続的に設定し、当事者意識をもつことができた。 ■児童が話し合いによって問題を解決し、差別解消のための行動意欲と実践的態度を一層はぐくむための指導と評価のあり方を検討する必要がある。	○城北際（10月）や小中交流会（11月）を通じた小中学生の交流により、子どもの中学校生活への意欲を高めた。 ○中学校区同和教育研究指定地区制度事業（1年目）として、授業を参観し合ったり、合同研修会を開催したりして、研鑽を深めた。 ■2年目の中学校区同和教育研究指定地区制度事業を計画的に進め、異議あるものにしていく。

〈夢・志チャレンジスクール事業の取組（地域とともにある学校づくり実践）〉

取組の概要	主な活動内容	
「差別を自分の問題としてとらえる」児童の育成を目指し、「ひがし同和学习プラン」を着実に実践し、同和教育を充実させている。 夢・志をもって活動する人との出会い、交流を意図的に設定し、児童が、差別される人、弱い立場にある人のつらい思いや心の痛みに共感し、憤りをもつとともに、差別解消を目指して今の自分とこれからの自分のあり方を考えるようになった。	生活科	植物や動物など命あるものとそれに関わる人との出会い、交流
	総合	障がいのある人との出会い、交流（3年）
	総合	部落差別やそれに立ち向かっている人々との出会い、交流（6年）
学校運営協議会の評価 ・児童が互いの考えを認め合い、自身の思いを見直している点が高く評価された。 ・授業において、ペアやグループ等による話し合い活動を多く取り入れ、主体的・対話的で深い学びを推進している。	夢・志チャレンジスクール事業の取組は、目指す子ども像の実現に有効であった	
	○	当てはまる
		どちらかというと当てはまる
		どちらかというと当てはまらない
		当てはまらない

スクールマネジメント実践報告書

学校運営協議会の活動内容

学校運営協議会の委員の構成									
教職員	1 人	保護者	2 人	住 民	4 人	その他	2 人	合計	9 人
学校運営協議会の回数 ※（ ）は、回数内における紙面協議回数	学校単独	1 学期	1 回 (0)	2 学期	0 回 (0)	3 学期	1 回 (0)	合計 2 回 (0)	
	中学校区合同 ※中学校区で同数にする	1 学期	0 回 (0)	2 学期	0 回 (0)	3 学期	0 回 (0)	合計 0 回 (0)	
活動の内容					成果○と課題■				
・第 1 回は、学校づくりの合い言葉「幸せをつなぐ～あなたがいて わたしがいる～」の学校経営方針を中核としたテーマ（自他の幸せ、対話的な活動、学び合いの場、働き方改革の取組など）での話し合いが行われた。 ・第 2 回の会では、学校評価で見つかった課題や困り感について熟議を行った。 ・授業参観の児童の姿から、学校運営の成果と課題を共有するとともに、今年度の学校運営の総括的評価を検討し、次年度の取組の方向を明らかにした。					○学校経営方針について、共通理解を図るとともに、承認をいただいた。授業参観で児童の様子を見ていただくことで、学校経営方針について、より具体的に協議することができた。 ■iPad や大型モニター等の ICT 機器の活用と学力の伸びについての話題が出た。効果的な ICT の活用について今後検討する。 ■メディアや SNS トラブル等について、学校運営協議会として何ができるかを検討。実行に移していく。				

総 括

子どもが紡ぐ様々なエピソードに触れるにつれ、子どもたちがもつ内面的な強さや、優しさから生まれるエネルギーに気付かされた。子どもの優しい心には、学校や地域、社会に、元気と希望を与える力強いエネルギーがあることを感じている。今年度、「幸せをつなぐ」を学校づくりの合い言葉に、様々な教育活動を展開してきた。人権教育、同和教育を基盤にした当校の教育課程が、自分とまわりの人々の「幸せ」をつなぎ、豊かな生き方へ歩む子どもを育てていることを実感している。

〈活動写真〉



〇1年生は、羊と遊んだり世話をしたりする活動の中で、動物への思いを膨らませていき、生命について関心を高めた。



〇3年生は、障がいのある人との交流を通して、思いやりや相手の立場に立つ想像力、共に支え合う共生社会の重要性を学んだ。



〇6年生は、部落差別の問題を正面から受け止め、真剣に考え、議論し、学ぶことで、今後の自分の生き方につながるヒントを得ることができた。